

前回見直し検討会議の意見聴取について(全体)

資料1

第5回見直し検討会議(令和7年7月)においてご指摘をいただいた事項について、第2次川崎市総合都市交通計画の策定における対応の方向性を検討した。

主な指摘事項	主な対応の方向性
全体目標 <ul style="list-style-type: none">✓ 全体目標の前に目標に関連する説明がないと唐突感があるため、追記した方が良いのではないか。	◆ 計画本編の「本市の現状」において、川崎市の都市イメージにおける過年度の分析結果を掲載いたしました。
モニタリング指標 <ul style="list-style-type: none">✓ 詳細なモニタリング指標は個別計画の中で反映している旨の記載が必要ではないか。	◆ 交通政策に係る主な項目をモニタリング項目として設定するとともに、関連計画で把握する動向等も施策の方向性の見直しに活用する旨を記載しました。
自転車の利用促進 <ul style="list-style-type: none">✓ 「シェアサイクルの普及など自転車の利用促進」の記述については、目標2ではなく目標4に記載した方が自然ではないか。	◆ 自転車の活用については、目標4の「身近な地域における交通施策の考え方」において、「シェアモビリティと公共交通との連携」を位置付けるとともに、目標2においては、「安全・快適で身近な自転車の活用に向けた取組」として整理しました。
交通政策審議会 <ul style="list-style-type: none">✓ 答申時期について、想定であることが分かるような記載とした方が良いのではないか。	◆ 答申時期について、想定の文言を追加しました。

(参考)第5回見直し検討会議における学識経験者の主な指摘事項

指摘事項の概要	
政策研究大学院大学 岸井委員	<ul style="list-style-type: none">✓ 全体目標の前に目標に関連する説明がないと、唐突感があるので追記した方が良いのではないか。✓ アンケート結果については、アンケートの聞き方や設問で大きく変わること可能性があるので注意が必要。✓ モニタリング指標について、交通に関する一部を記載し、総合計画等との関係性を含め、今後調整しながら作っていくという整理の方が良いのではないか。何か抜け落ちているのではないかと指摘を受ける可能性がある。
芝浦工業大学 岩倉委員	<ul style="list-style-type: none">✓ モニタリング指標の説明の中で、「各種目標に対する詳細なモニタリング指標は個別計画の中で反映する」旨の記載がないと、記載しているものだけ実施していくよう見えてしまう。✓ 全体目標の設定について、計画の一部の目標とだけ関連性があるというように見えてしまう。
関東運輸局 市野委員	<ul style="list-style-type: none">✓ 「シェアサイクルの普及など自転車の利用促進」について目標2に書かれているが、目標4に記載した方が自然ではないか。✓ 交通政策審議会答申の時期について、決まっていないことが分かる記載とするよう検討してほしい。

2-4 本市の現状

1章

2章

交通政策を取り巻く状況

3章

(7)川崎市の都市イメージ

- ・川崎市のイメージについて当てはまるものを市民に尋ねたところ、「便利」の選択割合が最も高く(47.8%)、市民は川崎市について「利便性の高い都市」というイメージを持っていることが伺えます。
- ・過年度からの推移を見ると、「便利」の選択割合は上昇傾向にあります。

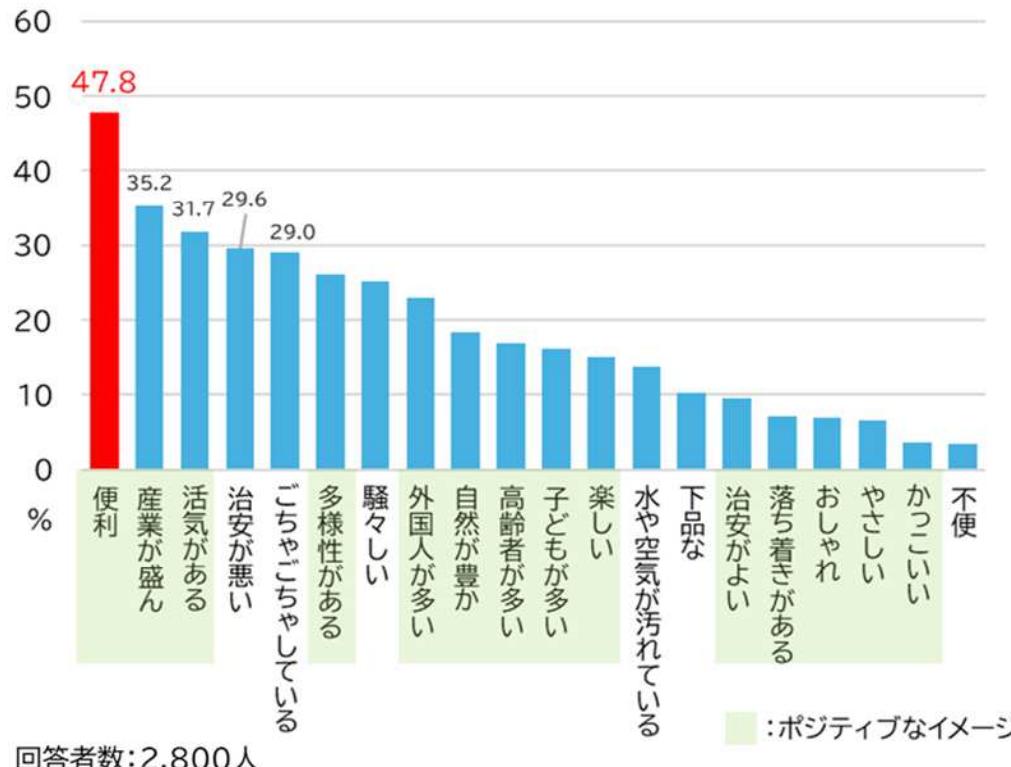


図 市民が持つ川崎市のイメージ
(出典)令和6年度川崎市都市イメージ調査

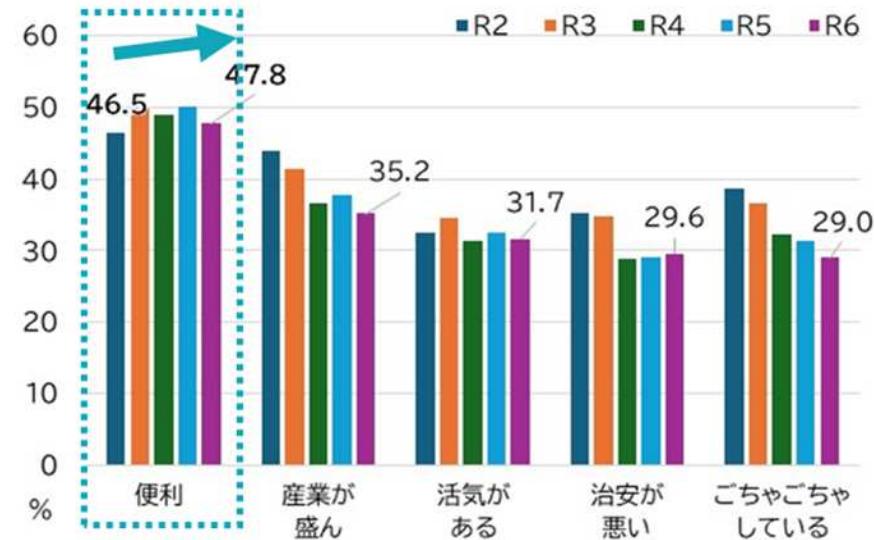


図 市民が持つ川崎市のイメージ(上位5項目、R2～R6の経年変化)
(出典)川崎市都市イメージ調査

第2次川崎市総合都市交通計画の策定について

7 目標値の設定

7 目標値の設定

- ・本計画は交通政策のマスタープランであるため、関連計画を含めた、将来目指すべき総合的な目標として、交通政策全体に係る市民の実感に即した全体目標を設定します。
- ・川崎市都市イメージ調査において、「『川崎市』のイメージに当てはまるもの」として、「便利」を選択した川崎市民の割合が最も多いことを踏まえ、「便利な都市かわさき」を将来につなぐため、本計画の総合的な目標として設定します。
- ・目標値については、本計画の目標年次である計画策定から、おおむね20年後の令和27(2045)年とします。
- ・分析間隔については、本計画の見直しに合わせ、おおむね5年とします。

全体目標

川崎市が便利な都市と感じる市民の割合

各ネットワーク形成事業等の推進や地域公共交通ネットワークの形成等により、都市の利便性の向上をめざします。

引用元調査データ：川崎市都市イメージ調査の質問項目「『川崎市』のイメージに当てはまるもの」（複数回答可）として、「便利」を選択した川崎市民の割合

引用元調査の間隔：毎年

本計画の分析：おおむね5年
(本計画見直し時)

基準値

基準年度

約48%

R6(2024)年



目標値

令和27(2045)年度

約55%

向上

